

本学スポーツ経営学科入学生の 体格・体力と生活習慣

高橋 正紀 / 岸 順 治 / 大野 貴司
福地 和夫 / 小野 勝敏

はじめに

I 方 法

II 結 果

1. 体格・体力測定の結果
2. 生活習慣に関するアンケート調査の結果

III 考 察

1. 体格・体力測定の結果について
 2. 生活習慣に関するアンケート調査の結果について
- おわりに

はじめに

本学では 2006 年度の学科改組によりスポーツ経営学科がスタートした。この学科においては、計画策定の中で学生募集上のインセンティブを明確にするという目的もあり、保健体育免許（中学・高校）を取得することのできるカリキュラムを構成した。その結果として、入学生のうちの多くの学生が、いわゆる体育大学へ進学する層と相似するような状況となり、岐阜経済大学の歴史において、はじめて多数の体育系学生を受け入れることとなった。

1967 年の大学開学以降において全く経験したことのない層の学生を多数迎え入れることになった今、この新しい層の入学生についてあらゆる角度か

ら検討を加えることは、4年間に最大限の教育的効果を上げるためには基本的作業であると考えられる。

そこで、本稿においてはスポーツ経営学科2007年度入学生がスポーツ経営学科以外の入学生と比較してどのような特徴を持っているのかを、体格・体力と生活習慣という角度から、全国的な大学生の平均値との比較も含めて検討することを目的とする。

I 方 法

(1) 測定・調査対象者

2007年度入学生のうち前期体育実技A科目を履修した学生181名を対象とした。181名の内訳は、スポーツ経営学科男子学生99名、同女子学生13名、スポーツ経営学科以外の男子学生69名（経営情報学科20名、経済学科40名、コミュニティ福祉政策学科9名）である¹⁾。

(2) 測定・調査期間

2007年の6月～7月の間に体育実技Aの授業時間内に実施した²⁾。

(3) 測定・調査項目と方法

体格測定では、(1)身長、(2)体重、(3)胸囲、(4)体脂肪率、(5)BMIの5項目、体力測定では、(6)握力、(7)上体起こし、(8)長座体前屈、(9)反復横跳び、(10)立ち幅跳び、(11)踏台昇降運動の6項目の計11項目の測定を実施した。

体格測定のうち、身長・体重・胸囲の3項目と踏台昇降運動については、東京都立大学の実施方法³⁾に基づいて実施した。体脂肪率(% fat)は、インピーダンス式体脂肪計(タニタ製TBF-401、TBF-410)を用いて測定し、BMI

(kg/m²) については、測定された各対象者の身長 (m) と体重 (kg) をもとに算出した。

踏台昇降運動を除く体力測定については、文部科学省の「新体力テスト」の実施要項⁴⁾に基づいて行った。

生活習慣に関するアンケート調査については、質問紙により居住形態、朝食摂取の有無、喫煙習慣の有無、睡眠時間、スポーツの実施頻度、テレビ視聴時間、および中学・高校・大学における運動部経験の有無について調査をした。

(4) 統計解析

体格・体力測定の数値はすべて平均±標準偏差で示し、男子についてはスポーツ経営学科の学生群とスポーツ経営学科以外の学生群間においてすべての項目間で、また、スポーツ経営学科男子学生群、同女子学生群、スポーツ経営学科以外の男子学生群との間においては、2006年度全国平均値⁵⁾との比較が可能な(1)身長、(2)体重、(6)握力、(7)上体起こし、(8)長座体前屈、(9)反復横跳び、(10)立ち幅跳びの7項目については、対応のないt検定を行い、統計的検定における有意水準は5%未満とした。

また、生活習慣に関するアンケート調査の結果(%)については、スポーツ経営学科男子学生群、同女子学生群、経営情報学科男子学生群および経済学部男子学生群⁶⁾との間において、比率の比較を行うために対応のないz検定を実施し、有意水準は5%未満とした。

II 結 果

1. 体格・体力測定の結果

表1は体格・体力の男子大学1年生(18歳)全国平均と標準偏差(以後、全国男子)、本学のスポーツ経営学科入学生男子平均と標準偏差(以後、スポーツ経営男子)およびスポーツ経営学科以外入学生男子平均と標準偏差(以後、スポーツ経営以外男子)を示したものであり、表2は同じく女子大学1年生(18歳)全国平均と標準偏差(以後、全国女子)および本学のスポーツ経営学科女子現役入学生(18歳、以後スポーツ経営女子)の平均と標準偏差を示したものである。

また、図1と図2は表1, 2に示された値について全国平均を100とした場合の指数値をグラフ化したものである。

以下これらの図表を参照しながら、それぞれの項目について考察を進めることとする。

〈形態測定について〉

(1) 身 長

男子の身長については、全国男子が 171.47 ± 5.54 cmであるのに対し、スポーツ経営男子が 172.33 ± 5.49 cm、スポーツ経営以外男子が 171.97 ± 5.77 cmであり、それぞれ全国男子との比較において有意差は認められなかった。また、女子の身長については、全国女子が 158.36 ± 5.13 cmであるのに対し、スポーツ経営女子は 161.88 ± 4.76 cmであり、スポーツ経営女子は全国女子に比較して身長が有意に高いことがわかった ($p < 0.05$)。

表1 本学男子学生の測定結果と全国平均値

項 目	本学男子（18歳）		全国男子（18歳）
	スポーツ経営	スポーツ経営以外	
身長 (m)	172.33 ± 5.49	171.97 ± 5.77	171.47 ± 5.54
体重 (kg)	67.33 ± 11.65	66.18 ± 12.41	62.92 ± 8.18
胸 囲 (cm)	89.07 ± 7.41	90.18 ± 9.31	
体脂肪率 (%)	14.90 ± 6.95	18.18 ± 5.86	
BMI (kg/m ²)	22.65 ± 3.54	22.34 ± 3.82	
握 力 (kg)	46.20 ± 7.92	45.64 ± 8.36	43.28 ± 6.23
上体起こし (回)	33.64 ± 6.04	29.93 ± 7.38	31.39 ± 5.47
長座体前屈 (cm)	53.11 ± 9.42	46.69 ± 10.53	50.22 ± 10.37
反復横跳び (回)	60.16 ± 5.98	53.67 ± 7.50	56.88 ± 6.09
立ち幅跳び (cm)	250.66 ± 20.50	236.59 ± 25.78	229.85 ± 19.56

表2 本学女子学生の測定結果と全国平均値

項 目	本学女子（18歳）	全国女子（18歳）
	スポーツ経営	
身長 (m)	161.88 ± 4.76	158.36 ± 5.13
体重 (kg)	58.79 ± 6.44	51.38 ± 6.58
胸 囲 (cm)	87.62 ± 4.84	
体脂肪率 (%)	24.68 ± 6.06	
BMI (kg/m ²)	22.44 ± 2.30	
握 力 (kg)	35.65 ± 4.93	26.48 ± 4.59
上体起こし (回)	26.69 ± 3.84	23.33 ± 5.66
長座体前屈 (cm)	50.80 ± 11.31	49.19 ± 9.55
反復横跳び (回)	53.62 ± 3.45	47.58 ± 5.25
立ち幅跳び (cm)	209.08 ± 9.33	171.37 ± 18.71

(2) 体 重

男子の体重については、全国男子が 62.92 ± 8.18 kg であるのに対し、スポーツ経営男子が 67.33 ± 11.65 kg、スポーツ経営以外男子が 66.18 ± 12.41 kg であり、本学の両群はそれぞれ全国男子に比較して体重が有意に重いことがわかった ($p < 0.01$)。また、女子の体重についても、全国女子が 51.38 ± 6.58 kg であるのに対し、スポーツ経営女子は 58.79 ± 6.44 kg であ

図1 全国平均値との指数での比較（男子）

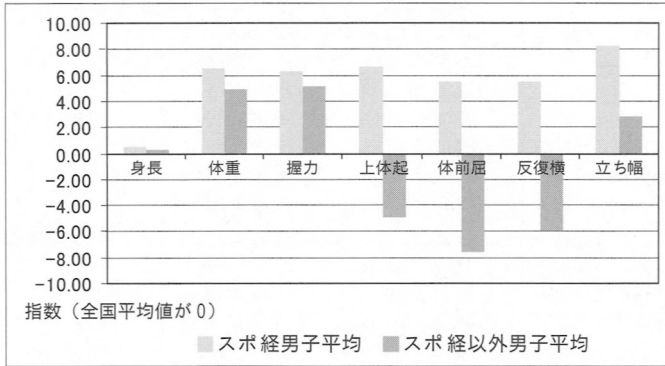
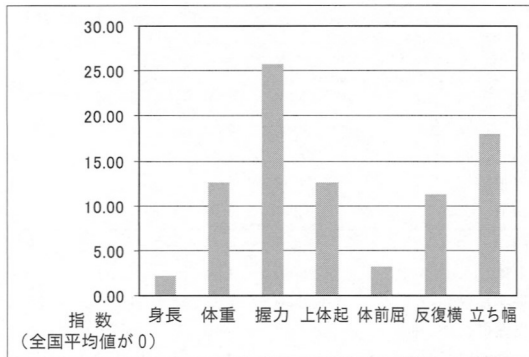


図2 全国平均値との指数での比較（スポ経・女子）



り、スポーツ経営女子は全国女子に比較して体重が有意に重いことがわかった ($p < 0.01$)。

(3) BMI, 体脂肪率, 胸囲

BMI, 体脂肪率, 胸囲の3項目については比較対象となる全国平均値がないため、スポーツ経営男子とスポーツ経営以外男子の両群の間においてのみの比較を行った。BMI および胸囲については両群の間に有意な差は見られ

なかったが、体脂肪率においてのみスポーツ経営男子 $14.90 \pm 6.95\%$ とスポーツ経営以外男子 $18.18 \pm 5.86\%$ の間でスポーツ経営男子はスポーツ経営以外男子に比較して体脂肪率が有意に低いことがわかった ($p < 0.01$)。

〈体力測定について〉

(1) 握力

男子の握力 (kg) については、全国男子が 43.28 ± 6.23 kg であるのに対し、スポーツ経営男子が 46.20 ± 7.92 kg、スポーツ経営以外男子が 45.64 ± 8.36 kg であり、それぞれ全国男子に比較して本学男子の方が有意に強いことがわかった ($p < 0.01$)。また、女子の握力についても、全国女子が 26.48 ± 4.59 kg であるのに対し、スポーツ経営女子は 35.65 ± 4.93 kg であり、スポーツ経営女子は全国女子に比較して有意に強いことがわかった ($p < 0.01$)。

(2) 上体起こし

男子の上体起こし (回数) については、全国男子が 31.39 ± 5.47 回であるのに対し、スポーツ経営男子が 33.64 ± 6.04 回、スポーツ経営以外男子が 29.93 ± 7.38 回であり、スポーツ経営男子は全国男子とスポーツ経営以外男子に比較して回数が有意に多いことがわかり ($p < 0.01$)、また、スポーツ経営以外男子は全国男子に比較して回数が有意に少ない ($p < 0.05$) ことがわかった。そして、女子については、全国女子が 23.33 ± 5.66 回であるのに対し、スポーツ経営女子は 26.69 ± 3.84 回であり、スポーツ経営女子は全国女子に比較して回数が有意に多いことがわかった ($p < 0.05$)。

(3) 長座体前屈

男子の長座体前屈 (cm) については、全国男子が 50.22 ± 10.37 cm であるのに対し、スポーツ経営男子が 53.11 ± 9.42 cm、スポーツ経営以外男子が 46.69 ± 10.53 cm であり、スポーツ経営男子は全国男子とスポーツ経営以外

男子に比較して値が有意に高いことがわかり ($p < 0.01$), また, スポーツ経営以外男子は全国男子に比較して値が有意に低い ($p < 0.01$) ことがわかった。そして, 女子については, 全国女子が 49.19 ± 9.55 cm であるのに対し, スポーツ経営女子は 50.80 ± 11.31 cm であり, スポーツ経営女子と全国女子との間に有意差は認められなかった。

(4) 反復横跳び

男子の反復横跳び (回数) については, 全国男子が 56.88 ± 6.09 回であるのに対し, スポーツ経営男子が 60.16 ± 5.98 回, スポーツ経営以外男子が 53.67 ± 7.50 回であり, スポーツ経営男子は全国男子とスポーツ経営以外男子に比較して回数が有意に多いことがわかり ($p < 0.01$), また, スポーツ経営以外男子は全国男子に比較して回数が有意に少ない ($p < 0.01$) ことがわかった。そして, 女子については, 全国女子が 47.58 ± 5.25 回であるのに対し, スポーツ経営女子は 53.62 ± 3.45 回であり, スポーツ経営女子は全国女子に比較して回数が有意に多いことがわかった ($p < 0.05$)。

(5) 立ち幅跳び

男子の立ち幅跳び (cm) については, 全国男子が 229.85 ± 19.56 cm であるのに対し, スポーツ経営男子が 250.66 ± 20.50 cm, スポーツ経営以外男子が 236.59 ± 25.78 cm であり, スポーツ経営男子とスポーツ経営以外男子は全国男子に比較して値が有意に高いことがわかり ($p < 0.01$), さらに, スポーツ経営男子についてはスポーツ経営以外男子に比較しても値が有意に高い ($p < 0.01$) ことがわかった。そして, 女子については, 全国女子が 171.37 ± 18.71 cm であるのに対し, スポーツ経営女子は 209.08 ± 9.33 cm であり, スポーツ経営女子は全国女子に比較して値が有意に高いことがわかった ($p < 0.01$)。

2. 生活習慣に関するアンケート調査の結果

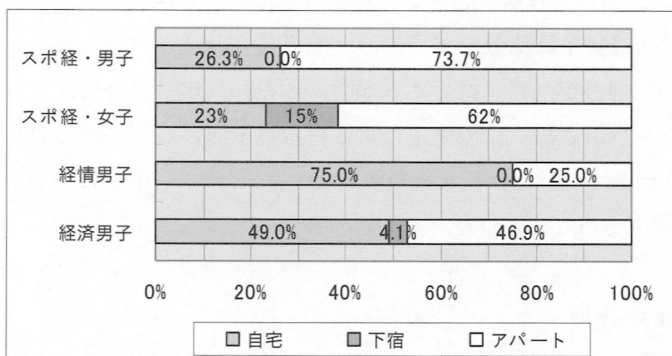
図3～図9は生活習慣に関するアンケート調査結果の調査項目ごとの割合について、本学のスポーツ経営学科男子入学生調査値（以後、スポーツ経営男子）とスポーツ経営学科女子入学生調査値（以後、スポーツ経営女子）、経営情報学科男子入学生調査値（以後、経営情報男子）および経済学部男子入学生調査値（以後、経済男子）のそれぞれについて示したものである。

以下これらの図および数値を参照しながら、それぞれの項目について考察を進めることとする。

(1) 居住形態

居住形態については、スポーツ経営男子およびスポーツ経営女子ともに、経営情報男子ならびに経済男子と比較すると、自宅か自宅外（アパートおよび下宿）という点において、スポーツ経営男子とスポーツ経営女子の自宅外（アパートおよび下宿）の割合が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）。

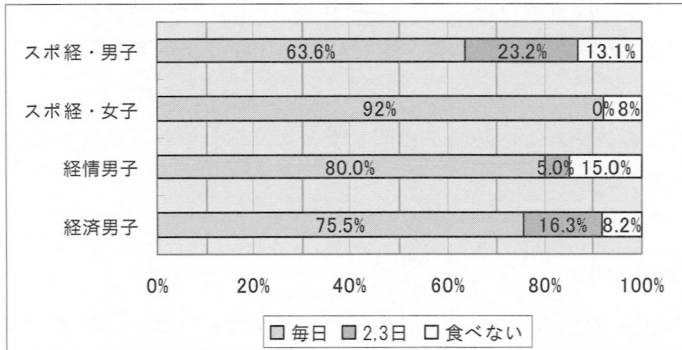
図3 居住形態



(2) 朝食摂取状況

朝食摂取状況については、スポーツ経営女子がスポーツ経営男子に比較して、「毎日」摂取する割合が有意に高いことがわかった ($p < 0.05$)。それ以外の各群および各項目の間においては、有意な差は見られなかった。

図4 朝食摂取状況



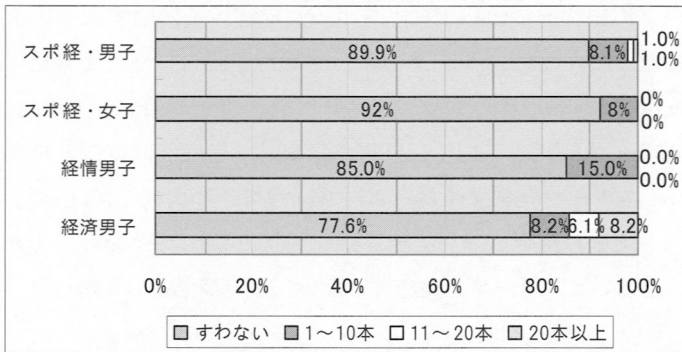
(3) 喫煙習慣

喫煙習慣については、スポーツ経営男子が経済男子に比較して、タバコを「すわない」割合が有意に高いことがわかった ($p < 0.05$)。また、スポーツ経営男子が経済男子に比較して、タバコを「11本以上すう」(11~20本+20本以上の割合)割合が有意に低いことがわかった。スポーツ経営女子についてはサンプル数が少ないため検定による有意差を認めることができなかったが、タバコを「すわない」ものが多いことと、「すう」ものについても1日に10本以下であることがわかる。

(4) 睡眠時間

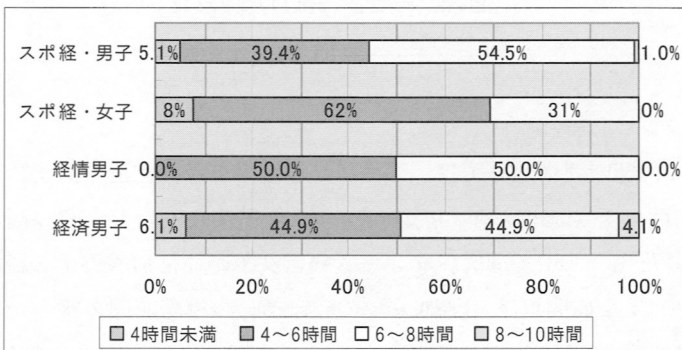
睡眠時間については、各群および各項目の間においては、有意な差は見られなかったが、スポーツ経営女子の睡眠時間において6時間以下(4時間未満

図5 喫煙習慣



+4~6時間)の割合が70%に至っている点について、その他の各群の睡眠時間6時間以下の割合と比較した結果、スポーツ経営女子はスポーツ経営男子に比較して、睡眠時間において6時間以下の割合が有意に高い傾向が示された ($p < 0.10$)。

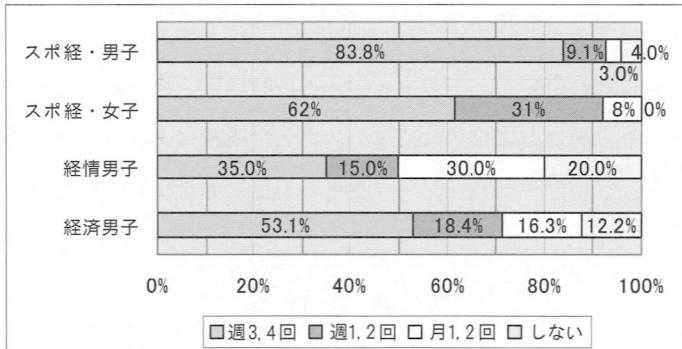
図6 睡眠時間



(5) スポーツ実施状況

スポーツ実施状況については、スポーツ経営男子が経営情報男子と経済男子に比較して、「週3,4回」のスポーツ実施の割合において有意に高いことがわかった ($p < 0.01$)。また、スポーツ経営男子が経営情報男子に比較して、スポーツを実施「しない」割合において有意に低いことがわかった ($p < 0.01$)。スポーツ経営女子はスポーツ経営男子に比較して、「週3,4回」のスポーツ実施の割合において低い傾向が認められ ($p < 0.10$)、サンプル数は少ないとはいえスポーツを実施「しない」ものが全くいなかった。

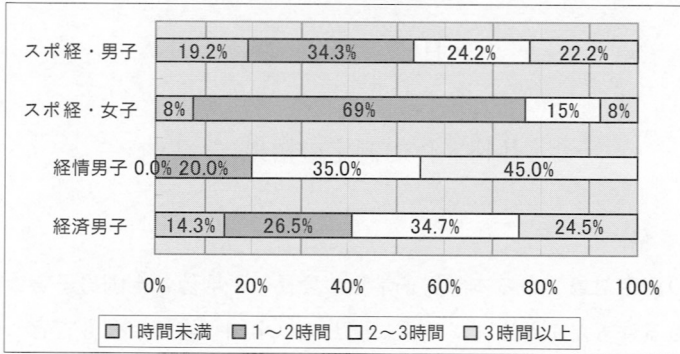
図7 スポーツ実施状況



(6) テレビ視聴時間

テレビ視聴時間については、スポーツ経営男子が経営情報男子に比較して、2時間以下（1時間未満+1~2時間）の視聴時間の割合が有意に高いことがわかった ($p < 0.01$)。また、スポーツ経営女子が経営情報男子と経済男子に比較して、2時間以下（1時間未満+1~2時間）の視聴時間の割合が有意に高いことがわかった（経営情報男子に対し $p < 0.01$ 、経済男子に対し $p < 0.05$ ）。

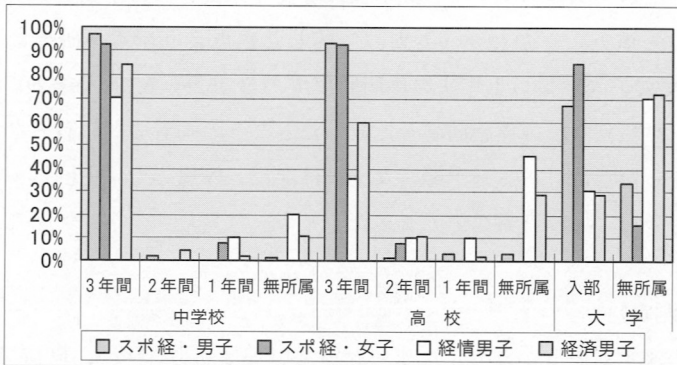
図8 テレビ視聴時間



(7) 運動部活動実施歴

運動部活動実施歴については、スポーツ経営男子が経営情報男子と経済男子に比較して、中学校時代と高校時代の3年間の部活実施率と大学での運動部入部率の割合が有意に高いことがわかった ($p < 0.01$)。また、スポーツ経営女子も経営情報男子と経済男子に比較して、高校時代の3年間の部活実施率と大学での運動部入部率の割合が有意に高いことがわかった (経済男子との高校3年間の部活実施率の比較のみ $p < 0.05$, 他は $p < 0.01$)。

図9 運動部活動実施歴



III 考 察

1. 体格・体力測定の結果について

〈体 格〉

今回の測定対象である本学男子学生の身長の平均値は全国男子とほぼ同様の値であるにもかかわらず、体重に関しては全国平均値よりも有意に重いことがわかったが、この点についてスポーツ経営男子の場合は原因の一つとして、トレーニングによって筋肉量が増加したために体重が重いということが考えられる。このことに関連して、岸ら⁷⁾による本学学生を対象とした研究における2003年度男子入学生の1年次の体脂肪率が $17.9 \pm 5.7\%$ ($n=180$)であり、今回測定のスポート経営男子と比較してみると、スポート経営男子の体脂肪率が1%水準で有意に低いことから、以上のことが類推される。なお、スポート経営以外男子については、スポート経営男子と比較して体脂肪率が有意に高いことから、体重の質的な側面においてはスポート経営男子に比して体脂肪の構成比が多いことが考えられる。

また、スポート経営女子については、身長・体重ともに全国女子よりも有意に高く・重いことがわかったが、上述した観点より岸らの研究における2003年度女子入学生の1年次の体脂肪率である $26.9 \pm 6.2\%$ ($n=29$)と今回のスポート経営女子の体脂肪率を比較したところ、両者の間に有意な差は見出せなかったため、スポート経営女子には身長・体重ともに上回っている女子学生が多いという考察にとどまった。

〈体力測定〉

今回の測定対象群のうち、スポート経営男子は筋力(握力)、筋持久力(上

体起こし）、柔軟性（長座体前屈）、敏捷性（反復横跳び）、瞬発力（立ち幅跳び）のすべての点において、全国男子よりも有意に優れ、また、スポーツ経営以外男子に比較しても、筋力（握力）以外については有意に優れていることがわかった。スポーツ経営以外男子についても筋力（握力）、瞬発力（立ち幅跳び）については全国男子よりも優れていることがわかったが、筋持久力（上体起こし）、柔軟性（長座体前屈）、敏捷性（反復横跳び）については、全国男子よりも劣ることが明らかになった。

また、スポーツ経営女子については、柔軟性（長座体前屈）において全国女子とほぼ同等であったが、その他の筋力（握力）、筋持久力（上体起こし）、敏捷性（反復横跳び）、瞬発力（立ち幅跳び）においては全国女子よりも有意に優れていることがわかった。岸ら⁸⁾による2003年の本学学生の体力の報告において、福地ら⁹⁾による1995年の本学学生の体力の報告と比較しての、本学における2002年度以降の「スポーツ推薦入学生」の増加に伴う体力面での平均値の向上の可能性が指摘されているが、今回の調査におけるスポーツ経営学科の男女学生は、体力についてはほとんどの領域において、学内の学生群のみならず全国平均値に比較しても優れているということが明らかとなったことから、スポーツ経営学科の学生は、体力面においてはスポーツ経営学科開設以前とは明らかに質の異なる層の学生群であるということがいえるであろう。

2. 生活習慣に関するアンケート調査の結果について

居住形態については、2007年度スポーツ経営学科入学生は、他学部や他学科の入学生に比して、通学が不可能な遠隔地からの入学生の比率が高いことや、自宅通学が可能な圏内の学生においても部活動時間を確保するために大学近隣に居住していることが考えられる¹⁰⁾。また、自宅外の学生比率が

高いということは、朝食を自分で準備しなければならない学生が多いということであり、スポーツ経営男子で朝食を欠食する者の割合がスポーツ経営女子よりも有意に高かった理由につながるのではないかと考えられる。

喫煙習慣についての結果は、スポーツ経営学科の学生はスポーツ実施時間において他群よりも有意に実施時間が長いということからもわかるように、自分が日々真剣に取り組んでいるスポーツ種目における競技パフォーマンスの低下につながる可能性の高い喫煙行動¹¹⁾を意識的に避けていることが考えられるであろう。

睡眠時間については、スポーツ経営学科内で男子より女子の方が睡眠時間が少ない傾向があるということは、上述の朝食摂取率がスポーツ経営男子よりもスポーツ経営女子が有意に高いということからも類推できるように、女子学生の方が自宅外の一人暮らしの生活をしっかりと過ごしている結果、睡眠時間が減ってしまっているのではないかと考えられる。

スポーツ実施状況については、スポーツ経営学科の学生の運動部活動所属率はかなり高いため、必然的に実施状況においても実施頻度が高くなっていることは想像に難くない。しかし、男子と女子を比べた場合に女子の実施頻度が運動部活動への加入率が高いにもかかわらず低くなっている点については、スポーツ経営学科の女子学生がもっと頻繁に活動したいにもかかわらず、実施するための諸環境が十分に整っていないのではないかという危惧を抱かせる¹²⁾。

テレビ視聴時間については、スポーツ経営学科の多くの学生はほぼ毎日のように運動部活動を行っている結果、肉体的疲労を回復させるための睡眠の必要性から一日の生活時間においてテレビ視聴時間が減る傾向にあることが考えられる。

運動部活動実施歴については、スポーツ経営学科の学生は中学校時代・高校時代を通じて継続して高い割合で運動部活動を実施してきていることがわかり、さらに、大学においてもスポーツ経営学科開設以前の本学学生と比較

して、極めて高い割合で運動部活動に入部し活動を継続しているといえる。

おわりに

本研究はスポーツ経営学科 2007 年度入学生について、スポーツ経営学科以外の入学生と比べてどのような特徴があるのかを、全国的な値との比較も含めて体格・体力と生活習慣について検討した。その結果、スポーツ経営学科生の体力は多くの側面での全国平均値や本学のスポーツ経営学科以外の学生に比較しての優位性が明らかとなり、また、生活習慣についてもより望ましい傾向を有していた。このことは、中学校・高校時代から大学生活に至るまでの運動部活動の継続という基本的特徴と、そのために必要となる様々な環境を大学生活の中でも整えようとしていることの表れが見られたと考えられる。

こうしたことは本学の学生が何らかの分野で長所を持つということにおいて、客観的には社会生活を営んでいく上での一つの自信につながることであり、さらに、その長所が健康な生活を営んでいく際の基盤となる基礎体力や基本的な生活習慣であるのであれば、それはそれで望ましいことであると言えるであろう。

このような優位性が、大学 4 年間の学生生活において維持・強化されることが重要であり、間違ってもこれまでの「良い習慣」が崩れたり、ましてや大学生活を通して「悪い習慣」に変化するようなことがあってはならないであろう。そのためにも、大学教育のシステムの中で良い面をより伸ばし、不足している面は補っていくような体制の構築が必須であると考えられる。特に、中学・高校から一貫しての「競技生活」を中心とした生活習慣の中に、知的側面における「学習」というサイクルをいかに染み込ませていくか、ということがスポーツ経営学科の学生にとっては特に重要であり、そのようなサイクルを築くことができれば、身体的に有意な基盤がある分だけ、より大

大きく変化していく可能性があるのではないか、ということを提言してこの稿を閉じたい。

〔付記〕

本研究を行うにあたり、体育実技授業において測定にご協力頂きました非常勤講師の皆様にご感謝いたします。

〔注〕

- 1) 本研究はスポーツ経営学科学学生の検討を主な課題としているため、他学科学学生の詳細な検討は省いている。
- 2) 本学では開学以来、体育実技において1回の授業を体格・体力測定にあてている。以前は4月の授業開始当初の授業を測定日としていたが、近年は6月の雨天時の授業において測定を実施している。
- 3) 東京都立大学体力標準値研究会（2000）『新・日本人の体力標準値 2000』不味堂出版。
- 4) 文部科学省ホームページ「新体力テスト実施要項」http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/stamina/03040901.htm
- 5) 文部科学省スポーツ・青少年局（2007）『平成18年度体力・運動能力調査報告書』。
- 6) 経済学部男子学生群については、コミュニティ福祉政策学科の学生サンプル数が9人と少なかつたため、学科ごとの比較とはせず、学部にまとめてある。
- 7) 岸順治・高橋正紀（2003）「体脂肪率とBody Mass Indexからみた本学学生の体力の検討」岐阜経済大学論集 第36巻4号。
- 8) 前出、岸・高橋（2003）。
- 9) 福地和夫・岸順治・高橋正紀・小野勝敏（1995）「本学学生の体力の推移と健康について」岐阜経済大学論集 第28巻4号。
- 10) この点について今回の研究では詳細な検討はしていないが、筆者が指導しているサッカー部のスポーツ経営学科1年次生16名についての状況としては、自宅外（通学圏外）12名（長崎・熊本・岡山・大阪・和歌山・滋賀・富山・長野3名・石川・茨城）、自宅外（通学圏）1名（岐阜）、自宅3名（愛知2名・滋賀）となっている。
- 11) 参考として、平成18年3月 第21回 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 審議会議事録がある。

- 12) この点については、本学の体育館が現在使用状況において、かなり過密な状況にあり、女子の体育館種目サークルなどは、大垣女子短大体育館で大垣女子短大サークルと合同で練習する曜日があることを付記しておく。